

物語文総合 No.1(スピーチコンテスト)

L1 標準

Class _____ No. _____ Name _____

レベル:L1(都立共通・神奈川の共通問題レベル)

目標時間:18分

満点:100点(自己採点)

次の英文は、中学生のリク(Riku)が書いた物語です。読んで、あとの各問に答えなさい。

- ❶ In September, our English teacher told us about the city speech contest. Then she looked at me and said, “Riku, why don’t you try?” Everyone in the class turned to me. My face got hot. I wanted to say no, but my mouth said, “... OK,” in a very small voice. That night, I could not sleep. Me? A speech? In front of many people?
- ❷ My friend Hana offered to help me, and we started to practice in an empty classroom after school. On the first day, I read my speech ten times, but my voice stayed small. Hana listened quietly and said, “Riku, your English is correct. But you are talking to the floor.” She was right. My eyes were on my paper and my shoes — never on her face.
- ❸ One week before the contest, I stopped in the middle of my speech. “I can’t do this, Hana. Forty people will look at me.” Hana thought for a while. Then she said, “Don’t speak to forty people. Choose one person, and speak only to that person. On the day, I will sit in the front row. Find me.” It sounded too simple, but I had nothing to lose.
- ❹ On the day of the contest, the lights on the stage were brighter than I thought. “Good morning, everyone,” I began. Then it happened — my next words disappeared. The room was silent. My hands became cold. In that long silence, I looked for Hana. She was there, in the front row, and she nodded slowly, like saying, “You are talking to me, right?” I took a breath and smiled a little. And the words came back.
- ❺ I did not win any prize. On the bus home, I felt tired but strangely warm. “Your speech was alive after that silence,” Hana said. “You were not talking to the floor anymore. You were talking to us.” In February, our teacher told us about another contest in spring. This time, before she said anything, I raised my hand first. Some things are still scary. But now I know how to begin — find one face, and speak to it.

[注] contest コンテスト・大会 / offer to ~ ~しようと申し出る / empty だれもない / silent / silence 静まりかえった／沈黙 / nod うなづく / prize 賞 / raise one’s hand 手を挙げる

物語文総合 No.1(スピーチコンテスト) **L1 標準**

設問 本文の内容について、最も適切なものをア～エから1つずつ選ぼう。

問1(15点) 第①段落のリクの気持ちとして最も適切なものはどれか。 ア 早くスピーチがしくて、わくわくしている。 イ 断りたかったのに引き受けてしまい、不安でいっぱいである。 ウ 自分を選んだ先生に、腹を立てている。 エ クラスのみんなに感謝している。	()
問2(15点) 下線部 talking to the floor が表す内容として最も適切なものはどれか。 ア 床をそうじしながら話している イ 床に座って話している ウ 大きすぎる声で話している エ 原稿と足もとばかり見て話している	()
問3(15点) 次のA～Dの出来事を、起こった順に並べたものとして正しいものはどれか。 A 大会の本番で、リクが次の言葉を忘れる。 B ハナが「1人に向かって話す」ように助言する。 C リクが自分から手を挙げる。 D 2人が空き教室で練習を始める。 ア B→D→A→C イ D→A→B→C ウ D→B→A→C エ A→D→B→C	()
問4(15点) 第④段落で、ハナのうなずきを見たあとのリクの変化として最も適切なものはどれか。 ア 落ち着きを取りもどし、続きの言葉を思い出した。 イ さらに緊張して、何も話せなくなった。 ウ スピーチをやめて、舞台からおりた。 エ 審査員に質問をした。	()
問5(20点) 本文の内容と合っているものはどれか。 ア リクは大会で優勝した。 イ ハナも同じ大会に出場した。 ウ リクは春の大会に、自分から手を挙げて立候補した。 エ 2人は体育館で練習をした。	()
問6(20点) この物語の主題として最も適切なものはどれか。 ア 英語の文法を正しく学ぶことの大切さ イ 友の支えと小さな工夫が、恐れをのりこえる力になること ウ スピーチ大会で優勝するための技術 エ 毎日早く眠ることの大切さ	()

とき終わったら かかった時間(分 秒)→ 次のページの解説で自己採点 → 得点(/100点) まちがえた問題こそ宝。解説の「誤答の切り方」まで読むと、次の1枚で点が変わる。

解答一覧(まず自己採点)

問1	問2	問3	問4	問5	問6	得点
イ	エ	ウ	ア	ウ	イ	/100

問1 正解 **イ**(15点) | 気持ちは「体の描写」から読み取る

根拠 顔が熱くなる(My face got hot)・言いたいのは no なのに口が OK と言う・その夜眠れない——3つの描写がすべて「断れずに引き受けた不安」を指す。Me? A speech? という自問も動揺の表れ。

誤答の切り方

ア	「わくわく」なら眠れない理由が楽しみになるが、直前の I wanted to say no と合わない。
イ	「断りたい+不安」——体の描写3点とすべて一致する。
ウ	怒りの描写(にらむ・声を荒げる)はどこにもない。
エ	感謝の場面ではない。みんなは「ふり向いた」だけ。

 **この形式のコツ** 物語の気持ちは「うれしい」「不安だ」と直接書かれないことが多い。**体の描写**(顔が熱い・手が冷たい・眠れない)を気持ちに翻訳する——これが物語文の第一の技。

問2 正解 **エ**(15点) | 比喩は「直後の説明」で確かめる

根拠 直後の文 My eyes were on my paper and my shoes — never on her face.(目は原稿とくつの上、ハナの顔には一度も向かない)が答えの言いかえ。「床に向かって話す」= 下を向いたまま聞き手を見ていない、という比喩。

誤答の切り方

ア	そうじの話ではない。文字どおりに取るワナ。
イ	座ってはいない。練習中に立って読んでいる場面。
ウ	声はむしろ「小さいまま」だった。
エ	直後の「目は原稿とくつの上」がそのまま説明になっている。

 **この形式のコツ** 物語の比喩も説明文と同じで、直後に説明がつく。「変な表現」を見たら訳す前に次の文を読む——筆者が必ず種明かしをしてくれる。

問3 正解 ウ(15点) | 順序問題は「段落番号」を出来事にふる

根拠 D練習開始＝第②段落、B助言＝第③段落(大会1週間前)、A本番で忘れる＝第④段落、C自分から挙手＝第⑤段落(2月)。物語の段落は時間順に進むので、段落番号がそのまま順序になる。

誤答の切り方

ア	助言(B)は練習が行きづまったあと。練習開始(D)より前には来ない。
イ	本番(A)は助言(B)のあと。「1人に向かって」の助言が本番で効く流れ。
ウ	D②→B③→A④→C⑤。段落順どおり。
エ	本番(A)が最初に来ることはない。大会は9月の告知のあと。

 この形式のコツ 並べかえは、A～Dそれぞれに「第何段落の出来事か」をメモしてから選択肢を見る。物語は原則、段落＝時間順——メモができれば答えは写すだけ。

問4 正解 ア(15点) | 「きっかけ→気持ち→行動」の3点セットで読む

根拠 きっかけ＝ハナのうなずき(You are talking to me, right?)。行動＝息を吸い、少しほほえみ、And the words came back.(言葉がもどってきた)。冷たくなった手・長い沈黙からの回復が1文ずつ描かれている。

誤答の切り方

ア	took a breath / smiled / words came back——回復の3描写と一致。
イ	「さらに緊張」は沈黙の前の状態。変化の向きが逆。
ウ	舞台をおりた描写はない。最後まで話し、拍手を受けている。
エ	審査員との会話はなし。

 この形式のコツ 物語の設定は「変化のきっかけ」とセットで気持ちを問う。下線や場面の直前にある出来事(誰が何をしたか)に印をつけ、その直後の行動描写と結ぶ——3点セットで解く。

問5 正解 ウ(20点) | 物語の内容一致は「結末の変化」が正解になりやすい

根拠 第⑤段落 I raised my hand first.(今度は自分から先に手を挙げた)と一致。9月には言えなかった「はい」を、2月には自分から言えた——物語の変化そのもの。

誤答の切り方

ア	I did not win any prize.(賞は取れなかった)と矛盾。
イ	ハナは客席の最前列で支えた側。出場していない。
ウ	第⑥段落の内容そのまま。
エ	練習は「空き教室」(empty classroom)。場所のすり替え。

🔑 この形式のコツ 物語の内容一致の正解は、主人公の変化を示す文に作られることが多い(最初にできなかったこと→最後にできたこと)。「勝った／負けた」の結果だけを見る選択肢はワナになりやすい。

問6 正解 イ(20点) | 主題は「最後の学び」の一文に集まる

根拠 最終文 now I know how to begin — find one face, and speak to it.(1人の顔を見つけて、その人に話す)が学びの中身。ハナの支え(助言+最前列)と小さな工夫(1人に話す)が、恐れをこえる力になった——全段落がこの一点に向かう。

誤答の切り方

ア	「文法は正しい」とハナが言う場面はあるが、主題は文法の外にある。
イ	助言・最前列・うなずき・最後の言葉——ハナの支えが物語の背骨。
ウ	優勝はしていない。「賞より大切なもの」が主題側にある。
エ	眠れない夜は不安の描写。眠り方の話ではない。

🔑 この形式のコツ 物語の主題は、最終段落の「今ではこう思う(Now I know ～)」型の文にある。出来事 요약 ではなく学びを言った選択肢を選ぶ——「一部の事実」より「変化の意味」。

本文の設計図(段落メモ)——復習は「1段落1行」でまとめ直すのが最短

①	9月＝先生に指名され、断れずに引き受ける(眠れない夜)
②	練習＝ハナと空き教室で。「床に向かって話している」と指摘される
③	1週間前＝行きづまり→「1人に向かって話す。最前列で見つけて」の助言
④	本番＝言葉が消える→沈黙→ハナのうなずき→言葉がもどる
⑤	結末＝賞はなくても「生きたスピーチ」。2月、自分から手を挙げる

もう一段のぼる 物語文の3点セット(きっかけ→気持ち→行動)は、どの物語でも同じ武器になる。No.2(祖父のトマト畑)は、変化がもっとゆっくり訪れる物語——「待つこと」の読み取りへ。

先生向け・運用ノート チャレンジ棚・スピーチ指導の前にも(本文約420語。計30分)。「1人に向かって話す」はそのまま発表指導の技術として使える。配点は問1～4各15点・問5～6各20点。